

百人一首 (うたばんごう 歌番号: 46 ~ 50)

<p>君がため 惜しからざりし 命さへ ながくもがな おもひけるかな 藤原義孝</p> 	<p>御垣守 衛士の焚く火の 夜は燃え 昼は消えつつ 物をこそ思へ 大中臣能宣朝臣</p> 	<p>風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ 砕けて物を 思ふころかな 源重之</p> 	<p>八重葎 しげれる宿の きびしきに 人こそ見えね 秋は来にけり 恵慶法師</p> 	<p>由良の門を 渡る舟人 かちを絶え ゆくへも知らぬ 恋の道かな 曾禰好忠</p> 
<p>ながくもが なとおもい けるかな</p>	<p>ひるはきえ つつものを こそおもえ</p>	<p>くだけても のをもう ころかな</p>	<p>ひとこそみ えねあきは きにけり</p>	<p>ゆくえもし らぬこいの みちかな</p>